

## 「水」に悩み続ける日本の建築現場を変える！ 日本生まれの「止水・防水パテ材」が建築業界を救う



日本の建築現場は、常に「水」に悩まされている。

島国である日本では、たいていの場合土を掘ると水が出てきてしまうのだ。

また湿気を伴った雨が降りやすい梅雨期間（6～7月）にかけては、特に悩まされ続けることになる。

例えば、基礎工事の土台となる「コンクリートと配管の貫通部分」。

土壌内に浸み込んでいる水が溢れだしているような状態の場合、工事中に不備が起こらないよう水が止まってから取り組むのが基本だ。



そうすると、必然的に工期を延期しなければならなくなる。

工期が延びると、そのぶん人件費がかさみ、別の工事日程も後ろ倒しになってしまうため、経営的な受難は避けられない。

そこで、そんな日本独特の悩みである「土壌の水」を解決する画期的な製品が誕生した。

その名も「ウォーターストッパブルパテ (WATER STOPPABLE PUTTY)」だ。



「ウォーターストップパテ」は、止水・防水性能のあるパテ材だ。

「塩ビ」や「ポリエチレン」「ゴム」「コンクリート」「金属」など、様々な素材に密着する性質を持っている。

通常のパテ剤と違い“水に溶けない材質”で作られており、水が浸透することもない。

そのため土壌の水が溢れている箇所や、漏水している箇所など、問題のある部分に「ウォーターストップパテ」充填させるだけで、速やかに水をせき止めることが可能だ。

その後パテを充填して水が止まったことを確認し、すぐに施工を進めることができる。

「ウォーターストップパテ」の登場により、あらゆる業者が施工箇所の乾燥を待たなくてよいため、工期を延ばさずに済むようになったのだ。



このような「止水・防水性能」がある充填剤の販売は、日本では初となる。

海外からの輸入製品は少なからずあったものの、高品質な「国産」の類似商品はこれまで存在しなかった。

多くの企業が「止水・防水用」製品の開発に取り組むものの、技術的に暗礁に乗り上げるケースがほとんどだったのだ。

従来“水をせき止める”となると、漏水している箇所にセメント材のような素材を押し込み、**固めてしまうという発想が一般的**だった。

固めたい部分が早く硬化する「速乾性」を高める方向で開発が進められていたものの、充填したパテが固まる前に水が浸み出してしまう。

接着剤が固まりきる頃には、既に水の道筋ができてしまい、どうしてもそこを**通って水はあふれ**出てしまう事態となっていた。



このように多くの企業が、水をせき止める硬化タイプの接着剤の開発に取り組んでは、挫折を繰り返してきた。

そんな中「[ウォーターストッパブルパテ](#)」は、“硬化”の発想を捨て、あえて“粘土状”の不溶性（水に溶けない）パテとして開発された。

粘土状のやわらかい状態のままで、すでにしっかりとした密着・吸着性があり、しかも耐水性能をあわせもっているため、充填箇所に詰め込むだけで、すぐに水をせき止めることができる。

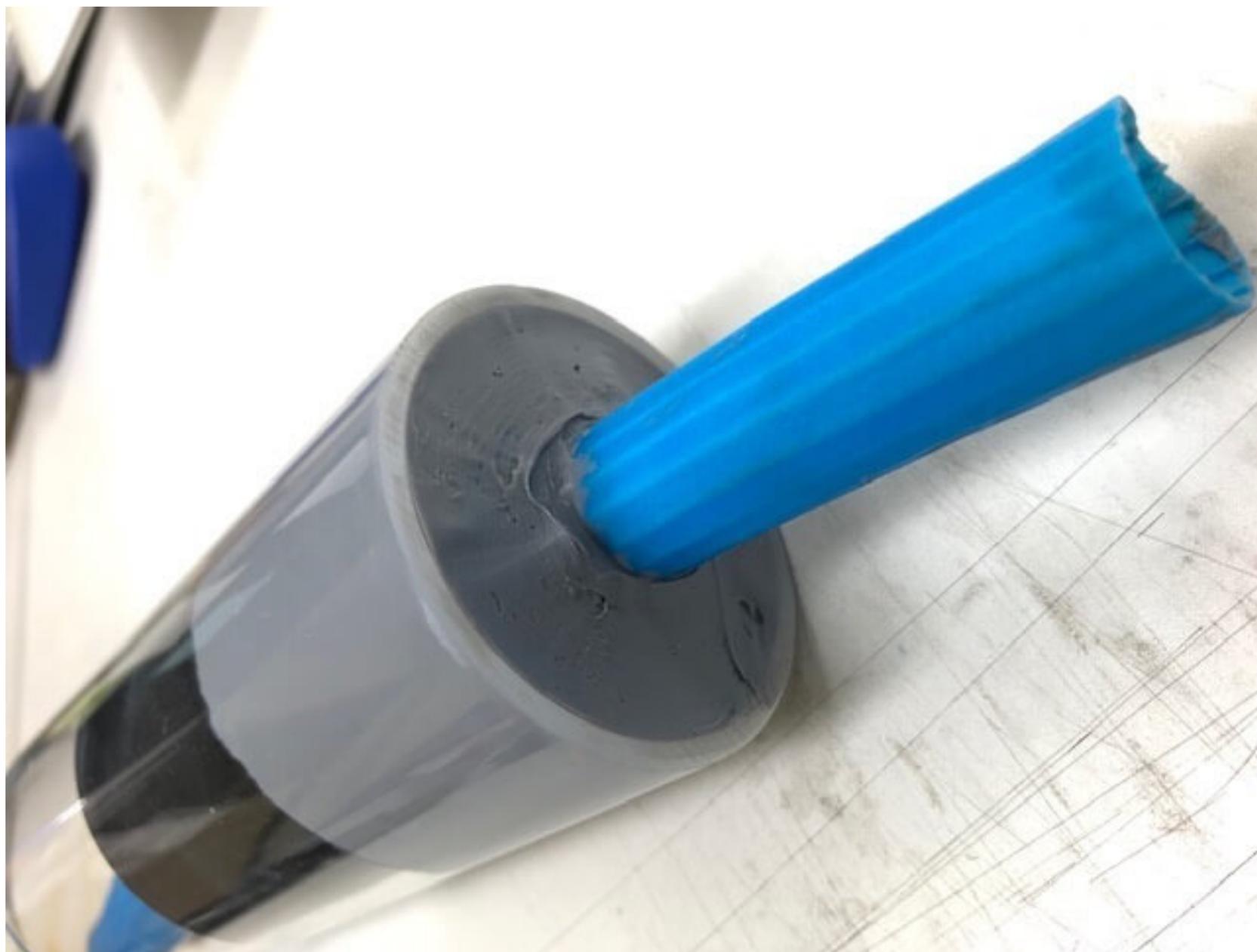
これまでのように接着箇所の乾燥を待たず、必要な個所にパテを充填させるだけで漏水を止められるため、様々な作業を速やかに進めることが可能になったのだ。

粘土状と聞くと“頼りなく”思うかもしれない。

だが「[ウォーターストッパブルパテ](#)」は「-20度~50度」まで対応しているなど、

様々な場面で利用できるほど利便性が高い。

寒冷地から気温の上がりやすい場所まで、あらゆる地域・ケースでしっかり密着性を維持することができるのだ。



そんな「[ウォーターストッパブルパテ](#)」は、

「電線共同溝内」「ハンドホール内」や「地下ピット内」の漏水補修・予防から、「電線管路口」や「配管廻り」「ダクト廻り」「ベルマウス廻り」のすき間の漏水補修・予防、

「電気BOX内」の封止・結露対策に至るまで、止水・防水が必要とされる、あらゆる施工場面での活躍が期待される。

# ウォーターストッパブルパテの用途

- ハンドホール内や地下ピット内の漏水補修・予防
- 配管廻りやダクト廻りのすき間の漏水補修・予防
- スリーブ廻りのすき間の漏水補償・予防
- 電線管路口からの漏水補修・予防
- ベルマウス廻りの漏水補修・予防
- コンクリートクラック部の漏水補修
- 電気BOX内の封止・結露対策



さらに工事完了後も柔らかい“粘土状”が保たれるというのも、「[ウォーターストッパブルパテ](#)」の大きな利点のひとつだろう。



「電線・通信ケーブル系」の工事などでは、後に追加で電線・ケーブルを通さなくては  
いけなくなることも多々ある。

もしも硬化性のある素材で止水していた場合、固まってしまった箇所を改めて取り除く  
工数が生じてしまう。

その点、**永久に柔らかい“粘土状”を維持できる「[ウォーターストッパブルパテ](#)」**であ  
れば、後通線の作業もそのまま簡単に行えるのだ。



扱いがとても容易なところも、「[ウォーターストッパブルパテ](#)」が期待されている理由  
のひとつだろう。

例えば「電線管路口」からの漏水の場合…

漏水の状況に応じて「バックアップ材（ヤーンやスポンジ）」などをなるべく奥に押し  
込んで、水の勢いを和らげるための壁を作る。

その後は「バックアップ剤」を目安にして、押し付けるよう「[ウォーターストッパブル](#)

パテ」を充填していくだけで、漏水を止めることができる。



新たな機材・資材を導入するとなると、その正しい使用方法を習得するまでに時間と労力がかかり、結局現場では持ち腐れてしまうケースも多い。

そんな中「ウォーターストップブルパテ」は、**普段現場で作業を行っている人間であれば誰でもすぐに使用できるほど使用方法が容易**なのだ。

保管方法に関しても、パテが最も吸着しやすくなる「25度前後」を保つだけのため、“容器ごと保温（もしくは冷却）する形で保管しておくだけ”と、驚くほど扱いやすい。

これまで日本の建築現場で天敵とされていた「水」や「湿気」。

これらを止水・防水できるようになれば、工事中に水が漏れてアクシデントに見舞われる危険性がなくなる。

さらにこれまで工期を延長せざるを得なかった乾燥までの「**待機期間**」がなくなるため、多くの業者が経済的に救われるはずだ。

「[ウォーターストップパテ](#)」の登場で、日本の建築現場の常識が根本から覆るかもしれない。

内容量は「1kg」と「5kg」が用意されている。

5kgを注文すると、スポンジのバックアップ材と、手袋、軍手が付属品としてついてくるため、届いたらすぐに使用が可能なのも嬉しい。



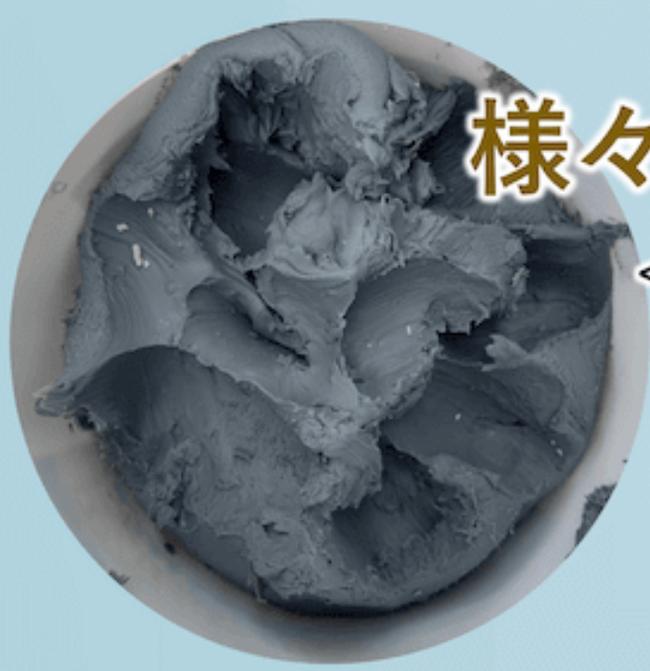
公式HPでは、さらに細かな製品情報が記載されている。

少しでも気になった施工業者や担当者の方は、覗いてみてほしい。

▼[詳細はこちら](#)

様々な漏水問題を解決！

＜漏水中でも施工が可能＞



**WATER STOPPABLE PUTTY**  
ウォーターストップブル パテ  
多用途止水・漏水補修用パテ剤



詳細はこちら 